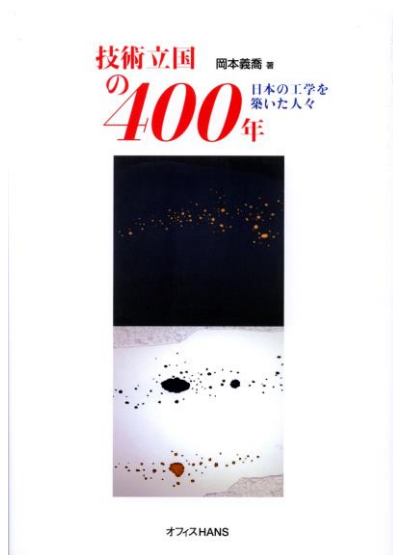


# 技術立国の400年—日本の工学を築いた人々

岡本義喬・著 A5判 208ページ 本体 1,800円＋税

人、教育、社会基盤、工業技術…、国家の発展に必要な条件とは何か。



香り高い独自の日本文化を育み、維新への跳躍台になった江戸時代、西洋文明を理解し、国際舞台にデビューした明治時代。本書は、日本が近世から近代へ変わろうとした時期に、先人たちが熱く挑んだ国づくりの物語である。インフラはじめ未曾有のプロジェクトを土台から支えたものは、土木、建築、機械、電気、化学といった工学だった。山尾庸三、古市公威、大島高任、志田林三郎、手島精一、榎本武揚…。近代国家建設に中心的役割を果たした技術者、教育者、企業家、お雇い外国人など500余人の業績を

紹介しながら、近代日本が歩んだ技術立国への道と彼らが残したものを、技術が工学として体系化されていった過程を検証し、日本再生のヒントを探る。

## Chapter.1 西欧技術の導入

キリシタン政策—容認から弾圧へ／長崎の出島と蘭学への傾斜／江戸時代の教育／開国と岩倉視聞

## Chapter.2 江戸期前後の国土開発

江戸の「もったいない」社会／築城と城下町づくり／上水道と下水道／江戸中期の新田開発他

## Chapter.3 軍事から民事工学へ

産業革命と民事工学／高まる技術競争—万国博覧会と博物館

## Chapter.4 お雇い外国人制度の成功

江戸期のお雇い外国人／幕府とオランダ海軍／産業革命の曙・長崎／明治初期のお雇い国人

## Chapter.5 明治期の近代工学教育／工部省を育てた山尾庸三

工部大学校とイギリス式教育／東京大学統合への流れ他

## Chapter.6 国産技術の開発／佐賀藩の反射炉と精煉方

薩摩藩の洋式自前工場「集成館」／水戸藩の反射炉と洋式高炉他

## Chapter.7 近代化の促進と公共投資

鉄道時代の始まり／自立のシンボル・疎水の流れ／近代水道への歩み／外国貿易港と商業他

## Chapter.8 近代化を推進した工学系学協会と指導者たち

主要学協会の設立／学協会の庇護者・榎本武揚